

田中宣一 教授 略歴・主要著作

経歴

昭和十四年 七月二十六日

福井県足羽郡下文殊村上細江二五―二八（現・福井市上細江）の母の実家において生まれる（父・国雄、母・恵美子）。一カ月余後、福井市西毛矢町二一の自宅に移る。

昭和二十年 七月十九日

福井空襲にて罹災し、右記の母の実家に疎開する。同年四月より通園していた孝顕寺幼稚園も罹災し、自然退園となる。

昭和二十二年 五月

疎開生活を終え、福井市春日町二二三（現・春日二丁目一一―七）に転居する。

昭和二十三年 六月二十八日

福井大地震にて家屋倒壊。ただ、戦災にても今回の震災にても家族（当時六名）にたいした異状がなかったのはなによりだった。

昭和三十七年 四月

勤めの関係により神奈川県に住み始める。

昭和四十四年 五月 十一日 江守尚子と結婚（のち、一男二女を授かる）。

昭和四十七年 四月 現住地（神奈川県伊勢原市桜台二一七―一七）に居を定める。

〔学 歴〕

昭和二十一年 四月 福井県足羽郡下文殊村立下文殊国民学校入学

昭和二十二年 五月 福井市立木田小学校 転入学

昭和二十七年 三月 同右 卒業

昭和三十年 三月 福井市立明倫中学校 卒業

昭和三十三年 三月 福井県立高志高等学校 卒業

同年 四月 國學院大學文学部文学科 入学

昭和三十七年 三月 同右 卒業

昭和三十九年 三月 國學院大學大学院文学研究科修士課程 修了

昭和四十二年 三月 國學院大學大学院文学研究科博士課程 単位取得退学

平成 五年 十月二十七日 『年中行事の研究』により、國學院大學より博士（民俗学）の学位を授与

される。

〔職 歴〕

昭和三十七年 四月 神奈川県公立学校教諭に採用され、昭和五十一年三月まで、県立茅ヶ崎高校

(定時制)、県立伊勢原高校、県立湘南高校に順次勤務する。

昭和五十一年 四月 (学校法人成城学園) 成城大学文芸学部専任講師(同五十五年四月 助教授、

平成二年四月 教授)

昭和 六十年 四月 成城大学大学院文学研究科助教授併任(平成二年四月 教授併任)

平成 元年 四月 成城大学民俗学研究所主事併任(平成三年三月まで)

平成 十一年 四月 成城大学入試広報部長・入試管理委員会委員長(二期二年)

平成 十二年十一月 成城大学評議会評議員(二期四年)

平成 十九年 四月 成城大学大学院文学研究科長(一期二年)

平成二十二年 三月 定年により、退職

その間、昭和五十一年四月より平成十二年三月にいたるまで、次の研究機関等にて一年ないし数年、非常勤講師を勤める(勤務順)。

神奈川県看護教育大学校、跡見学園女子大学、東海大学(文学部)、専修大学(文学部)、東京大学(教養学部)、清泉女子大学、神奈川県立衛生短期大学(専攻科)、明治学院大学(法学部)、国学院大

学（文学部）、筑波大学（第一群人文学類）、早稲田大学（第一・第二文学部）

〔表彰〕

神奈川県教育功労者（社会教育）

神奈川県教育委員会 平成十二年十二月

〔学会活動・社会的活動〕

・日本民俗学会評議員（昭和五十三年より四期十二年、平成四年より二期六年、平成十三年より二期六年）

・日本民俗学会理事（昭和五十三年より三期九年、平成四年より二期六年、平成十三年より二期六年）

・文化庁、文化財保護審議会専門委員（平成十三年より文化審議会専門委員と改称）（平成六年～平成十七年）

・国立歴史民俗博物館運営協議員（平成十六年より人間文化研究機構国立歴史民俗博物館運営会議委員と改称）（平成十五年～平成二十年）

・学術審議会専門委員（科学研究費分科会）（平成二年～四年）

・芸術文化振興基金運営委員会民俗文化財専門委員会専門委員（平成四年度・五年度）

・神奈川県文化財保護審議会委員（平成六年～平成十八年）

著作

- ・（神奈川県）川崎市文化財審議会委員（平成十四年～）
- ・（東京都）世田谷区文化財保護審議会委員（平成十六年～）
- ・（東京都）多摩市史編集委員（昭和六十年～平成十年）
- ・（神奈川県）伊勢原市史編集委員会専門員（昭和六十一年～平成六年）
- ・明治安田クオリティオブライフ文化財団伝統文化分野選考委員会委員（平成三年～）

〔著書〕

- | | | |
|--------------------------|-------------|---------|
| 『年中行事の研究』 | 桜楓社（現・おうふう） | 平成四年七月 |
| 『徳山村民俗誌 ダム 水没地域社会の解体と再生』 | 慶友社 | 平成十二年七月 |
| 『祀りを乞う神々』 | 吉川弘文館 | 平成十七年五月 |
| 『供養のこころと願掛けのかたち』 | 小学館 | 平成十八年八月 |

〔共著・共編著・編書〕

- 『『町内会』の民俗学的研究―川崎市域の町内会と旧来の住民組織』（鈴木通大・畑聡一郎・山本質素）

の各氏と共著)

川崎市博物館資料収集委員会 昭和六十三年三月

「川崎市域町内会の略史」「大師の町内会と旧来の住民組織」「小杉の町内会と旧来の住民組織」

「有馬の町内会と旧来の住民組織」「町内会の型と相互の関係」などを執筆。

『雑木林と人々のくらし』(小坂広志・近藤茂・松田操の各氏と共同執筆)

多摩市文化振興財団 平成二年十一月

「雑木林をめぐる民俗」を執筆

『食の昭和文庫』(松崎憲三氏と共編)

おうふう 平成七年十月

「^ノ馳走^ノと食文化」を執筆

『三省堂年中行事事典』(宮田登氏と共編)

三省堂 平成十一年八月

『海と島のくらし 沿海諸地域の文化変化』(小島孝夫氏と共編)

雄山閣 平成十四年三月

編集のほか、『海村調査』『離島調査』とその成果の活用「漁民のエビス信仰」などを執筆

『半島のくらし 広域民俗誌の試み』(小島孝夫氏と共編)

慶友社 平成二十一年三月

編集のほか、「知多半島域の信仰生活」などを執筆。

『戦後生活改善活動と生活文化の変容』

農文協 近刊

岡上民俗文化財緊急調査団編『岡上の民俗』

川崎市教育委員会 昭和五十七年三月

同調査団長として編集を担当し、執筆を分担する。

川崎市民俗文化財緊急調査団編『小杉とその周辺の民俗―都市化と民俗』

川崎市教育委員会 昭和六十二年三月

同調査団長として編集を担当し、執筆を分担する。

山口台民俗文化財調査団編『山口の民俗―川崎市麻生区上麻生（山口地区）』

同調査団 昭和六十二年八月

同調査団長として編集を担当し、執筆を分担する。

『伊勢原の民俗―成瀬地区―』（伊勢原市史民俗調査報告書・1） 伊勢原市 昭和六十三年一月

これを第一冊目として、平成八年三月までに、『伊勢原の民俗』に「伊勢原・岡崎地区」「大山地
区」「高部屋地区」「比々多地区」「大田地区」「職人の生活と技術」というサブタイトルをつけた
調査報告書を合計七冊、伊勢原市史編集委員会専門員として編集を担当し、執筆を分担する。

『多摩市の民俗（社会生活）』（多摩市史叢書・1） 多摩市 平成元年三月

これを第一冊目として、平成八年三月までに、『多摩市の民俗』に「人生儀礼」「口承文芸」「信
仰・年中行事」「衣・食・住」「メカイ（目籠）関係資料」というサブタイトルをつけた調査報告
書を合計六冊、多摩市史編集委員会委員として編集を担当し、執筆を分担する。

伊勢原市史編集委員会編『伊勢原市史（別編民俗）』 伊勢原市 平成九年三月

同編集委員会専門員として編集を担当し、執筆を分担する。執筆内容は、「交通と交易」「大山と日向の信仰」など。

多摩市史編集委員会編『多摩市史（民俗編）』

多摩市 平成九年三月

同編集委員会委員として編集を担当し、執筆を分担する。執筆内容は、「地域のしくみと人の交わり」「多摩ニュータウンと民俗」など。

成城大学民俗学研究所編『昭和期山村の民俗変化』

名著出版 平成二年三月

同研究所主事として編集を担当し、執筆を分担する。執筆論文は、「『民俗変化』と追跡調査について」「生活改善諸活動と民俗の変化」。

成城大学民俗学研究所編『日本の食文化―昭和初期・全国食事習俗の記録』

同研究所主事として編集を担当し、解説を執筆する。

岩崎美術社 平成二年九月

成城大学民俗学研究所編『日本の食文化（補遺編）―昭和初期・全国食事習俗の記録』

同研究所所員として編集を担当し、解説を執筆する。

岩崎美術社 平成七年十月

〔論文（二十編をめどに示す。ただし先の著書・編著書に含まれているものは除く。発表順）〕

「根渡・三島・八幡合社の宮座―神奈川県足柄上郡大井町篠窪」

『民俗』五十八号 昭和三十九年十二月

「村・講中・組合内の家々の関係―川崎市多摩区岡上の場合」

『川崎市文化財調査報告』十二集 昭和五十二年三月

「明治初期における大山講の分布」

『成城文藝』八十三号 昭和五十三年二月

「エビス信仰の伝播と神去来伝承の複雑化」

『信濃』三十一―一 昭和五十四年一月

「相模大山の茶湯寺参りについて」

『成城文藝』九十一号 昭和五十五年三月

「屋久島のエビス神信仰」

『日本常民文化紀要』八輯―(Ⅰ) 昭和五十七年三月

「相州大山講の御師と檀家―江戸末期の檀廻と夏山登拝をめぐって」

『日本常民文化紀要』八輯―(Ⅱ) 昭和五十七年三月

「一村落における明治末期の神社整理―川崎市麻生区岡上の場合」

『成城文藝』一〇三号 昭和五十八年三月

「七夕まつりの原像」(國學院大學編『日本民俗研究大系』三 所収)

昭和五十八年五月

「エビス神の一側面―不具神伝承について」

『日本常民文化紀要』十輯 昭和五十九年十二月

『山村調査』の意義

『成城文藝』一〇九号 昭和六十年一月

「多摩市内の『講中物』」

『ふるさと多摩』二号 平成元年三月

「寺院と年中行事」(『仏教民俗学大系』七 名著出版 所収)

平成四年八月

「解題『桂女文書』と〈桂女由来記〉」(民俗学研究所編『諸国叢書』十集 所収)

平成五年三月

「昔話と年中行事―『大歳の火』をめぐる」

『昔話と年中行事』（『昔話―研究と資料』二十二号） 平成七年六月

「稲種子の授受、交換」（にひなめ研究会編『新嘗の研究』四 第一書房 所収） 平成十一年四月

「柳田国男の『真澄発見』―羽柴雄輔との交流をとおして」

『日本常民文化紀要』二十一輯 平成十二年三月

「新生活運動と新生活運動協会」

『成城文藝』一八一号 平成十五年一月

「現代の祭り状況と祭り類型化の試み―大分県佐賀関町『関の権現夏祭り』を例として」

『民俗学研究所紀要』二十八集 平成十六年三月

「松本平のエビス信仰（上）―西宮恵比寿神社の神札頒布にかかわらせて」

『日本常民文化紀要』二十五輯 平成十七年三月

「松本平のエビス信仰（下）―松本市商業地域のエビス社を中心に」

『日本常民文化紀要』二十六輯 平成十九年三月

「『伝承』の全体像理解にむけて」

『日本常民文化紀要』二十七輯 平成二十一年十二月